

(公財)日本太鼓財団 令和6年能登半島地震 支援報告書(16)

能登半島地震の発生から1年が経った元日、発災時刻の午後4時10分に合わせて、各地で黙禱が捧げられた。この地震では石川県と富山県、新潟県で、あわせて504人が亡くなった。この中には心的ストレスや身体的負担による災害関連死も含まれている。

石川県では昨年末から「節目反応」への注意喚起が行われた。節目反応とは辛い出来事などを経験した場合、その日付が近づくと、無意識に心身が反応し、不安定になることである。誰にでも起こることなのだが、なかなか自分のこころや体の反応に目を向ける余裕がない。周りからの気付きも必要になってくる。

1年が経過した今でも、被災地では、至る所に震災や水害の爪跡は残ったままである。早くに道路が繋がった場所は、少しずつ住民達の姿が増え、家の軒先に洗濯物が干され、買い物袋を下げた方々を多く見かけるようになった。しかし、年末に道が繋がった地域は、重機の音だけが響き、復興作業員の姿しかない。

*

*

*

2025年1月27日(月)

輪島・和太鼓 虎之介(輪島市中心部)

輪島祭り太鼓(輪島市中心部)

支援対象となった両団体の太鼓を納品する。支援報告書15に記載したが、両団体とも本来の太鼓保管場所は地震や水害被害を受けているため、現在、輪島・和太鼓 虎之介の練習場所となっているJA ライスセンターに太鼓を保管することになった。同団体の橋爪朱宗代表の立ち会いのもと、納品の太鼓を確認していく。

支援対象となった太鼓は、輪島・和太鼓 虎之介が平太鼓1台修理、平太鼓1台新調、締太鼓1台修理および太鼓ハードケース新調、長胴太鼓1台修理およびソフトケース新調、輪島祭り太鼓が締太鼓1台修理となった。順に紹介していく。



被災した平太鼓①



革面修理した平太鼓①



被災した平太鼓②



新調した平太鼓②



被災した締太鼓



被災した締太鼓のハードケース



新調した締太鼓とそのハードケース



被災した長胴太鼓およびソフトケース



革面修理した長胴太鼓および新調したソフトケース



被災した締太鼓(輪島祭り太鼓)



革面修理した締太鼓

練習場となっている、震災前に閉鎖された JA ライスセンターにはトイレがなく、すぐ近くに公共トイレがある。しかし、昨年9月に起きた豪雨災害による土砂崩れにより、現在も使用することはできない。

橋爪代表と今後の練習場所確保の話になった際に、学校の統廃合による施設利用についての話題があがった。被災地では、兼ねてから問題であった人口減少と少子化現象に、更に拍車がかかり、学校の統廃合の議論が進んでいる。輪島市では災害復旧と並行して、市内全域9小学校を3校に再編する可能性も出ている。子育て世代の人口流出が止まらない中、致し方ないことかもしれない。一方で通学が不便になる子ども、災害避難拠点を失う地域が出る問題も残る。

現在、被災した一部の学校では、市民クラブや運動部の活動に使われている場合がある。しかし、大きな音の響きがある太鼓の場合は、近隣に仮設住宅が建ち並んでいることもあり、なかなか許可が取りにくい。橋爪代表は、「4月に入れば、その利用状況が変わるかもしれないが」と前置きした上で、「これだけ人口流出があると、どの太鼓チームも演奏できるメンバーを確保することの難しさや後継者育成が問題になっていると思います。太鼓に少しでも興味を持ってもらう機会を増やす必要があると思っていますので、春から、小規模でも良いから、仮設住宅への音の配慮をしながら、太鼓の体験会を開こうかと考えています」と話された。



練習場近くの公共トイレ

輪島市中心部近くと名舟町の様子

空き地、学校の運動場、至る所に仮設住宅が建ち並ぶ。原則、入居期限は2年といわれているが、公費解体の進み具合や復旧状況を鑑みても、その期間での恒久的な住まいの確保は難しく、期限延長の方向で進むだろう。土砂崩れのままの山の斜面や護岸工事が終わっていない河川が多くあり、田畑においては、昨年9月の豪雨災害の流木がそのままになっている場所もある。

名舟漁港は、隆起して海水がなくなった場所に、汚泥が溜ったままだ。能登半島を支えてきた第一・第二産業を復興し、持続可能な状態にもっていくか、大きな課題である。

ただ、飲食店の営業再開は多く見られるようになってきた。住民達や、復興作業員の食を支え、賑わいを取り戻す一助となっている。更に、輪島市だけではなく、被災地全域で復興支援ツアーが組まれるようになり、今年に入り、一部の被災地では人の流れが見られるようになってきた。



名舟漁港 2024年1月11日



名舟漁港 2025年1月27日



名舟町の海岸 2024年11月14日



名舟町の海岸 2025年1月27日

能登半島外浦

昨年12月27日に開通した道を走る。隆起した海岸に新たに整備された迂回路である。道幅が狭く、譲り合いが必要な場所があるが、この道のおかげで、外浦に面した珠洲方面にはだいぶ早く往来できるようになった。1月初旬にも別件の用事があり通った道であるが、その3日後に寒波の影響で、一部区間で土砂が崩落し、道が塞がった。この辺りの地質は、数千万年前の火山活動で火山の噴出物が固まってできた火砕岩が多く、風雨や風雪による浸食を受けやすいという。その時刻に車を走らせていたらと思うと、背筋が凍った。

他の場所よりも開通が遅れたこともあり、道を走ると、震災当初に時間が巻き戻された感覚を覚える。住民の姿は見かけない。



珠洲市宝立町

被災地の太鼓団体の多くは、地元の祭りや神事が由来となり、神社と密接に関わっているものが多い。2024年7月31日付の石川県神社庁のまとめでは、所属する1867社のうち、本殿や拝殿が全壊したのは212社におよび、半壊や一部半壊を含めると1300社を超える。住民達が負担し、地震保険に入っていた神社もあるが、住民が戻らず、生活再建もままならない状況は、神社の再建に大きく影響している。

支援報告書8でご紹介した「農事組合法人こうぼうアグリ」の宮崎宣夫代表理事にお会いする。9月の水害では、ご自身の田畑も被害を受け、汚泥が被った田んぼは酸性となり作物が実らないため、泥を掻き出し整えなければいけない。頑張っても、今年は収穫率が2割下がると話された。途中に、見附島観光協会の方とお話しをする機会があり、「祭り」について語らう。「人が集まれる場所・集まりたくなる場所」を作る大切さを改めて実感する。



*

*

*

被災地の太鼓団体への太鼓調査および修理は、ここで終了となる。1月13日に宮崎県で最大震度5弱、1月21日に台湾南部で最大震度6弱、1月23日に福島県で最大震度5弱、そして3週間以上延焼を続けたロサンゼルス山火事、1ヶ月を振り返るだけでも自然の脅威はすぐ側にある。

日常生活の中で忘れがちになるが、いつ起こるか分からない、自然がもたらす災害の前では、人間は弱くて無力だ。しかし、危機から学び、工夫をする力はある。自然災害を対岸の火事とはせず、過酷で不自由な環境の中で生き抜いた被災者たちや現地支援に携わった方々の声に、これからは耳を傾けて欲しい。何よりもの教訓となる。

浅野 紘佳

(公財)日本太鼓財団 寄附金支援事業支出計算表(2月分) ※12月・1月は無し

支援内容	団体名	金額
太鼓修復・新調支援	輪島和太鼓虎之介	986,720
	輪島祭り太鼓	125,000

合計 1,111,720

(2025年2月4日)

* * *

ご寄付、ご支援をありがとうございます。

寄付金の累計額は2月7日現在で、13,960,006 円と変わりありません。

収入差額は 2,206,824 円となりました。

今後の見通しとしまして、年度末で一度差額を確認し、改めて2025年度の支援を行う予定です。

引き続き、お預かりした寄付金は大切に使ってまいります。

ここまでの16本全ての支援報告書を作成した浅野紘佳さんは、発災直後の2024年1月から 12月いっぱいまで、日本太鼓財団職員として支援業務に携わり、危険も多い被災地に赴き、被災者の方たちに寄り添いながら適切な支援を計画・実行し、現地の実情を伝えてくれました。

今回の報告書では最後の修復・新調太鼓となった支援の他、被災地の現在を総括してもらいました。

被災地支援への寄付はいろいろな組織により数多く行われていますが、集められた寄付金がどのように使われているかを金額、内容などを詳細に伝える取組みはあまり例がなく、この実現は浅野さんの労力、努力なくしては不可能でした。

ありがとうございました。

収支計算書(2/7 現在)

(単位:円)

収入		金額	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	
1/9	東北太鼓連合	300,000	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	
1/27	河合 光夫	10,000	シニアコンクール出場者
1/29	福井県太鼓連盟	30,000	
1/29	松本 弘昭	35,000	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	

2/2	櫛引 秀明	50,000	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	浅野太鼓楽器店 17 代当主
2/6	岡山県支部	110,000	
2/7	宮城県太鼓連絡協議会	150,000	
2/8	北海道道東支部	30,000	
2/9	茨城県支部	95,000	
2/13	千葉県支部	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟獅子の会	50,000	国文祭ゲスト団体
2/13	全九州太鼓連合	2,805,701	
2/14	神奈川県支部	50,000	
2/16	佐々城 清	1,000,000	常務理事
2/16	高野 右吉	10,000	評議員、前副会長
2/16	宮城県太鼓連絡協議会	20,000	
2/16	滋賀県支部	50,000	
2/18	兵庫県支部	200,000	
2/26	日本太鼓財団事務局	143,000	
2/29	静岡県支部	100,000	
3/1	奈良県支部	162,000	
3/4	台湾太鼓協会	500,000	
3/7	北海道道北支部	132,628	
3/11	宮本卯之助商店	1,000,000	
3/14	栃木県支部	106,984	
3/15	群馬県支部	98,000	
3/18	和歌山県支部	130,000	
3/18	北海道道央支部	25,000	
3/19	長野県支部	540,537	
3/21	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
3/21	愛知県支部	257,632	
3/26	NPO 法人てほへ	150,000	志多らグループ会社
3/27	(有)志多ら	350,000	
3/27	ブラジル太鼓協会	440,000	
3/28	西川恵美子	50,000	評議員
3/28	北海道道南支部	150,000	
3/29	NPO 東京都太鼓連合	100,000	
3/29	日本太鼓財団東京都支部	500,000	
3/29	日本太鼓財団三重県支部	10,000	
3/29	日本太鼓財団島根県支部	100,000	
4/19	鶴岡太鼓フェスティバル	50,000	
4/25	岐阜県太鼓連盟	28,000	

4/30	逢鷲太鼓連 久野壯	50,000	
4/30	逢鷲太鼓連	92,000	
5/13	広尾陣屋太鼓保存会	10,000	
6/27	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
7/16	日比谷音楽祭	609,000	
9/27	西岡 知則	30,000	
10/1	日本太鼓財団兵庫県支部	200,000	
10/4	岩手県太鼓連盟	100,000	
10/4	岩手県立大船渡東高校太鼓部	14,775	
10/15	障害者大会来場者募金	18,088	10/6 障害者大会
10/23	国文祭来場者募金	45,661	10/20 国文祭
10/25	日本太鼓財団香川県支部	100,000	
11/8	浅草太鼓祭来場者募金	11,000	11/3 浅草太鼓祭

計 13,960,006

支出		金額	備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741	
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080	
1/27	志賀町/輪島	18,415	
2/8	名舟町	54,780	
2/11	輪島	28,534	
1~2月	各チーム交通費	67,714	
4/1	バチ	20,185	
4/3	横断幕	38,500	
3月	各チーム交通費	105,152	
4月	各チーム交通費	14,973	
5月	各チーム交通費	4,637	
6/28	太鼓修繕	344,000	須須守護神太鼓保存会
7/11	太鼓支援活動の助成金	3,800,000	日本太鼓財団石川県支部
8/1	太鼓修繕/新調	2,588,000	山王太鼓、弁天夢太鼓、珠洲八幡太鼓
9/12	太鼓修繕/新調	1,465,200	龍神太鼓保存会
7月	各チーム交通費	4,637	
10/31	太鼓新調	895,600	馬縹キリコ太鼓保存会
11/21	太鼓修繕/新調	866,000	町野祭り太鼓、御陣乗太鼓保存会
11月	各チーム交通費	73,314	
2/7	太鼓修繕/新調	1,111,720	輪島和太鼓虎之介、輪島祭り太鼓

計 11,753,182

収支差額	2,206,824
------	-----------